



Follow me!

舞台裏レポート動画公開中!  
流灯まつり当日はライブ配信予定!

# 特集 流灯まつりを 支える人たち

杉戸の夏の風物詩、『古利根川流灯まつり』がどのように作られているかご存知ですか?  
意外と地道な、「地上に降りた天の川」の裏側を紹介します。



絵描きの様子



準備開始(5月中旬)

地元建具店が灯ろうの骨組みとなる木材を加工

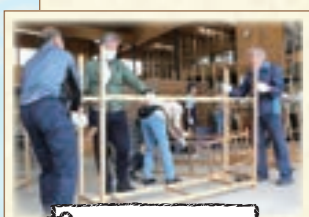


木材は、杉戸町と交流のある神川町産を使用!

灯ろうに設置する浮き台(1本約2m)を500本用意



行政区等の住民ボランティアが木枠を組立て



釘を使わない伝統的な手法!

組立て(5月下旬)

木枠に絵や協賛企業・団体名の紙を張り、ようやく見慣れた灯ろうの形に!



灯ろうの大きさはたたみ一畳分!

紙張り(6月下旬)

中間地点にイカダを設置し、ここから上流と下流の灯ろうをつなぐ



イカダ係留(7月中旬)

灯ろうに浮き台を固定し、古利根川に係留  
地元電気工事組が電球を取り付け

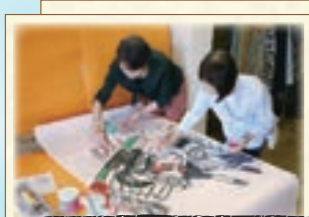


係留作業(7月下旬)  
今年は7月29日(水)予定

ボランティア、商工会会員、役場・友好都市富岡町職員等のべ70人以上が集結

ボランティア募集中です!  
やってみたい方は観光協会(32-3719)まで

絵師ボランティアが版画に色付けオリジナルイラストも制作



250基の灯ろうに張る絵は500枚!

絵描き(6月上旬)

完成!



## Interview



杉戸町観光協会 会長  
杉戸町商工会 会長  
鈴木 豊 さん

まつりをみんなで育てていくために、特に大事なことは?

住民やボランティアの協力です。本当にたくさんの人の協力で成り立っています。また、協力いただくことによって、自分たちのお祭りだと意識できるので、当日がもっと楽しみになりますよね。

ここだけは絶対に見てほしいというポイントを教えてください!

現在は遊歩道ができ、安全に川辺まで下りられるようになったので、手が届きそうなほど近くから見られるようになりました。色々な角度から楽しんでほしいですね。ただ、灯ろうの光は昔と変わりません。今住んでいる方も、杉戸を離れた方も、ふるさとの記憶として心に留めていただけたら嬉しいです。ぜひお越しください。



インタビュー完全版(町ホームページ)

## 地域の力を合わせて

古利根川流灯まつりは、昭和初期に始まりました。杉戸町・宮代町の商店会が協力し、それぞれの店が工夫を凝らした灯ろうを大落古利根川に浮かべる、店のPRを兼ねたイベントでした。

その後、一時中断していましたが、町民の中で「何か特徴のあるイベントで町おこしを」という気運が高まり、杉戸町の「本町昭和会」(駅前商店会の有志)が中心となって、平成2年(1990年)に復活しました。現在では、「古利根川流灯まつり実行委員会」が中心となって、毎年準備を進めています。

今も昔も、地域の力を結集して開催しているのが、古利根川流灯まつりの大きな特徴です。



▲昭和10年頃、古川橋から撮影。当時は灯ろうの形が様々。